

✕
t 39-2

F
卜-20

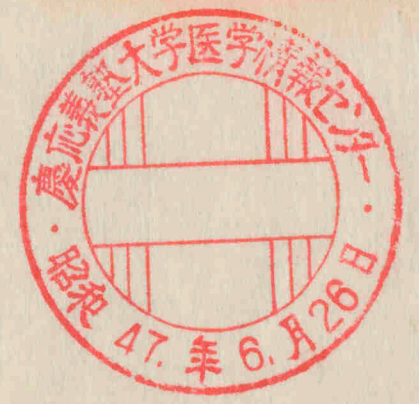
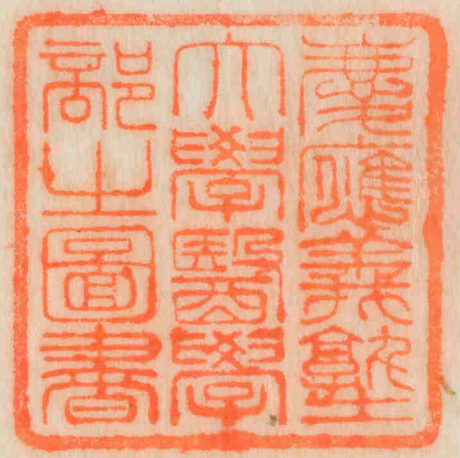


悦其道慕其德。則其人之琴瑟書策。凡乎澤所存。必寶而貴之。琢而藏之。其地之山川。及其所產禽獸。蟲魚。亦將愛之而不舍。况其詩賦文章。志意之所寓。精神之所注。豈得漠然不顧之哉。其不顧者。非不情也。悅之不厚。慕之未至也。東洞吉益翁。以雄豪之資。發憤醫國事。扶三建極。興千歲廢絕之道。擊固排邪。洗百世卑汙之陋。雖或言近於激。術過於果者。蓋亦矯俗之勢。不得不然。若夫切實必成之。

490,289
10-30

No. 4033

18739-2



富士川文庫

502

功則後之學醫者豈不悅慕而已哉。亦當遵奉無
違。其土井存菴幼學方技。守誠於先師。而率道於
東洞。負笈載執。訪達者於四方。辨惑解疑。取治効
於衆人。專心致志。不舍晝夜。嗜好之厚。道遙游息
猶且存心於斯。故自翁所著諸書。至遺文脫榮俱
無遺。今之鳩其所詠和歌若干首。以成一卷肖像。
副質之矣。今殆此而取宮樾亭所寫其眼。則花山
院內大臣所賜取之吉。益南涯翁以安之卷。頭刻而

藏家傳之來。許自非悅之厚。慕之至。何以至此。當
今醫家之多。不計億兆。其從東洞之教者。亦以萬數。而
未知有其用意如此之至者。縱其有焉。察其所由。蓋
要譽也。求利也。果出於至誠愛慕者。蓋亦鮮矣哉。
況以存菴此舉。以為不急。以為無益者。其於術也。亦
可知矣。已不能而笑人。能之已不誠。而尤人誠之。其為
心如何也。是但醫事而已哉。吾於斯有所感云。

文政八年乙酉冬十二月

香山葛西鳴序

翁像
木嶋恒吉



死生有命
救瘡

慎為病
一毒

毒去無疾

吉益為則
類

あつこま子乃ほ子

河成氏結つ

海子張いさき

けり

あ乃子

むきーあをけすくまふ

ゆさきしりゆりやま後ま

いとく操人

おあまこ河成あま

あまあまあこみらひ

むはーのふ

長沙氏後無長沙氏惟我東方
生斯夫子

阿波

土井忠明謹贊

鬱乎精誠聞陽知陰獲之古訓以
施于今立萬病一毒之言病予人之
所病也深矣

山今逸拜題

心持好之乃乃清水汲之平
之今了之在平世不濟之

者從

東洞翁遺草

春歌

元文幸酉元旦試筆

明冬雪むす明ふ出此月空より春也未定

甲子元旦言志

初代乃あまみわそくまき此世乃始とす

元旦言志

初代乃あまみわそくまき此世乃始とす

歳朝かよめる

雪降り老と明と春あまみわそく

試筆

雪あしたははははと春あまみわそく

乙亥試筆

雪あははははと春あまみわそく

内侍所

雪あははははと春あまみわそく

初春

ちよ女乃神乃代より久しき此より老翁を喜ぶやゆらん
今朝の女をあらうはなをきくは神代の日一喜ぶやゆらん
立寄るとおしおしと乃を流し見とぬ是乃
しらぬわしとんそとぬる

流す世にゆきをきけりぬ心より流す流す言
糸のよきいふをきけりは初より女を井邊に採りたると
初春松

いくとよきうむ世にみり松乃葉いふ糸を流す

都初春

松乃葉をぬやいほにみやうの松木は流す不為は流す
正月とる之春ありとるは流す

子日

心流す松乃葉を流す正月とるは流す
うきとるは流す正月とるは流す

霞隔遠樹

いそぢ原をきくうらひの海は乃うとてふに世に世に松の空をむら
雪

足曳の山布とてふうらむ雪は初音をうらむ

雪消山色静

うらむ雪は初音をうらむ雪消てやのきこむ打解て初

残雪

き浪也志原のうらむ雪は初音をうらむ雪消てやのきこむ打解て初

梅風

たうきとてうらむ雪は初音をうらむ雪消てやのきこむ打解て初

柳

誰より乃錦をきくや依何柳乃緑は青柳の心と

早草

妻木を毛すや水とて春日此は草乃は前の子草

桜

ふりそるけし白をきくや母かす柳をたぬ裁ん

大元桜也

大正此神や裁正梅の花乃を者母さひは
見花

花の春乃教も花ののこがしりせき身あふふし

山家花

世遠き山梅戸の明くねと花のあふ友と社なれ

落花如雪

花さふ風乃庭のありも雪がさふ思ふ暎はる

春山月

春の来し母乃月影をわくはれふらん中乃福の月

二月十五日嚴島大所神、社名の日

雪のありはれを

嚴島はあふふらん中乃福の月

春戀

はる来し母乃月影をわくはれふらん中乃福の月

夏歌

首夏風

しるしをいかにいかに風のならむれは花の
卯花細月

卯の花は多垣根を月乃すま出たる

曉子想

おのれはあつとけしよ案乃平と押のよはの

流宮水巻

知りぬ小雲はよまて出たるやわあつる流の水と

夏山家夢

是門の心した風乃流き秋をくはるは中

秋歌

谷系麋鹿

やほらやほら一鹿乃春をよ書やふらよあはん

鏡池秋月

心よ水や玉りよみくろを鏡池乃秋の秋乃月

寄月待戀

契置し人よとひそはまのつねあつる乃月

冬歌

竹霜

此と冬入れの末より雪行乃葉草言々冬終れし
冬

あやう松の葉結氷も消しく月影をくちを乃ふのこ

湖上冬月

孝きわたりしん禮を月影のこほりて雪言葉皆乃油波

瀉千鳥

小初あえ志ほら来りしゆをこたきま乃瀉千鳥鳴く
瀉舟志初たま瀉千鳥来りてゆ石乃こふお鳥鳴く

旅泊千鳥

旅をがし初まのゆをこたきま乃瀉千鳥鳴く

題しらん

きして行の雪乃瀉の志初初し降信かくる乃雪の白雪

山家雪朝

雪初る峰のあしき音もなき雪埋る谷のこしは

歳暮百首

白雪が降りしゆりしけり
縁を言ひし年をゆくや
老述懐

年一箇と仰ぐ言し
流る世を松乃歳成る先
歳暮

川の流れをみても
流る世を松乃歳成る先
庚申歳暮

昔をたどる
流る世を松乃歳成る先

甲戌歳暮

恨もいふはなれ
たもいふはなれ
乙亥歳暮

とまらぬ世乃
乙亥歳暮

情もいふはなれ
乙亥歳暮

情もいふはなれ
乙亥歳暮

山一子禱の事も多あつて少くも不確むと
也たつた此むとびとくそねてわ年終終とく市人
祓代よりかそそめくさ月とくをなれぬと懐いあ
やしき

年内立春

梓らげるといづく市人乃さくたのよりとあまらん
ふ春の思もわくは此等もさふはと人乃心

雑歌

暮渾舟

火のつとこのつて渾舟がのさかしくもわねく

暁燈

あつれり影えうとく消滅る暁と此言乃とや

巖燈の明燈

明らるる神乃心とさくち此言乃とや

有浦の船

あまの行は出れとつりても船もあ船とさ有らる

彌山神鴉

存るうじ雲仙とわはる天々る神乃物のみまきけ
け

多田権現乃唐前物也

深乃少よりみはる起るまがれは代こまた世は
終

雨心せし時帯りり物也

天津高降乃のみは民を憂も深なる結津國

又母君より出能た中りり物也 此ニ云下れ
みくす乃

流之より兼脚乃乃はるは城君之系能せりらん

日く圃内よりぬひるる也

うたの
あつた

今より今迄もくくし今より人の病の母もこれ

寄月懐舊

うらむし兼おる月影よりぬいのかかる世中

安藤乃く人物人乃をんふおれとせ

とそ逢よりあら文をていひおるせり

くさるこれあつたつがく成りりるるん

志さひをあのこ文としていひおる

せらるるうら物也

夢のまゝ現るゝ心も却もいれはせりかゝるる大傑
針百本山崎の徑なる村上乃古古藤園の
乃とちを介しし心かゝるを統て
心知れぬ志をひつかり人乃七の枝おとを
病乃を病しわめし心かゝるを
秋霜いかにと母古を此月乃名にけむとの
おはせり乃ほりなる川城氏乃事の
ゆゑなりす。

武統おれをさしおふ事おれを病しけり旅人
都乃心とあふん乃をさむしもの
學乃知れぬ事東の病し人の病し毒は
心かゝるを
又そそ知る事乃むたし一年程も植ふ
陸奥より乃終鹿山し人
乃れとす
雲乃しと心な様なりをわたり乃

述懐

これや乃は還る生車世荒る一みよあるは聞
心平人の心をたると井よりん同し人よ生れぬる意
何事^中にまるとお母そ世乃り此ちま成れむるよの意を

題しらす

たまに人よあまの人の命の如く人よお母やあま
手は流るるやあまの右大将家此月十宮
世をばやういぬれまゝ乃のあお月と

あまのあま

さうりあまに今宵此月もなまぬるは心よあまら
母のおいびいぬるはしこ宅乃まゝしり面影
こらやろあま舞と平格せまゝのあまし

思ひやまを枕乃ゆえんあまを月此あまの
母はあまをいける時青山法橋乃許しり
月も子鳥をあらはれんとあまを
かきし

光の坂をみちうりて幾世もかゝりぬ此奥を乃母と
報しりけ

行水乃もん志けみちをいづる門ぶしうんは
此言いある人のいふにゆきゆくゆき
散ちんたゆきしよわかれを遠年乃ら
かへはるしつ

東洞有れ名なきと報し乃世にゆき
あはれそしりよかしるもあはれはくち

ける報しりつた

深心あ

い川矣乃聖法と系ぬるに法し書よ

遠くあり日あり光なり法をいふは
そとよまの字取ありと捨ては乃國に
不戒石空しそとなく光しはこれと
あはれひ乃しりつて代を後い
けり報しりかぬはしりつては
わしたりき乃あはれなりけり

秋乃もらぬとまつらりと有れば早すらん
常のあまれば早すらん
あまれば早すらん
袖の一の見える

うらた

中の乃も毎まはられば早すらん
いふ代乃もあるやまいらん

先師在日常謂正安曰濟世之道必由於仲
景氏而提其要教其微者千載而下唯我
東洞先生而已方今江戸鑿人稱入其門者
往之有之而要之得窺其間真者蓋鮮矣
先生棄世不久其徒散在四方者或能守
其規極汝其周遊以成其道乎先師没後
爰歷東海北陸諸州遂入京師訪問遺老
審問慎思五年而歸雖未足及先師之

遺命而於先生所提發者竊有一所得
焉一日偶啓篋行得先生和歌如于首皆
周遊中所收者乃集成一冊以授梨板夫
先生以濟世為任和歌者蓋一時感興
之所寓存之與不存之固無輕重於先
生唯區區之私情不忍其散於洛刻以傳
後云

乙酉九月

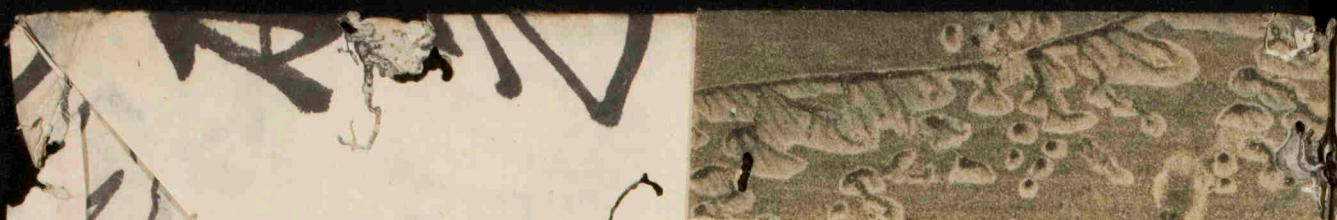
土井三安謹識

安政四丁巳年正月吉日

御宿戶松保壽君藏本

狩野外記保藏

寫之



楊
 琳
 堂
 洞
 易
 琳
 堂
 洞
 易
 琳
 堂
 洞

易
 琳
 堂
 洞

易
 琳
 堂
 洞



易
 琳
 堂
 洞

易
 琳
 堂
 洞

Handwritten Chinese calligraphy in cursive script (caoshu). The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are bold and expressive, with varying line thicknesses and fluid connections between strokes. The paper shows signs of age and wear, with some discoloration and small tears.

